

情報可視化論・最終課題

1. 課題内容

ボリュームデータに対する可視化アプリケーションを開発する。また、その実装内容について説明する。

2. 実装したもの

ロブスターの Isosurface をもとに、アプリケーションを開発した。開発したものは以下の二つ。

- isovalue を自由に変更して、ロブスターを再表示する。
- ロブスターのスライス面を重ねて表示し、さらにスライス面の法線ベクトルを自由に変更して再表示する。

ウィンドウの様子を図 1 に示す。

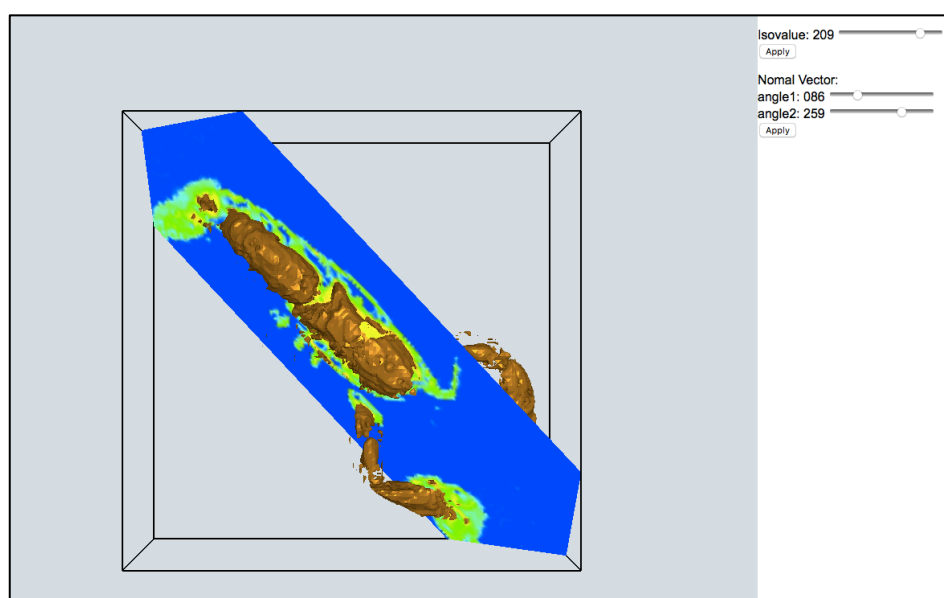


図 1 : ウィンドウの様子

図 1 において、angle1, angle2 はスライス面の法線ベクトルを定めるためのもので、図 2 における u が angle1, v が angle2 にあたり、法線ベクトルが r となるよう設定している。

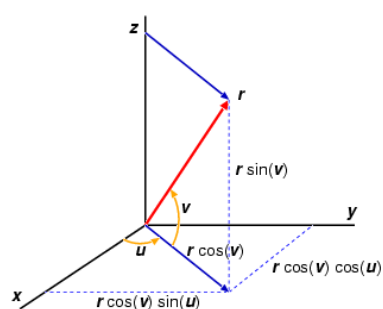


図 2 : 法線ベクトルの様子